

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとりひとりに寄り添って おだやかな笑顔と寄り添い合える暮らしを 私たちのこころで 応援します」 を理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常にスタッフの目の届く場所に掲示、毎月の会議の度に確認をしている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎日の散歩時に近所の方との交流を図っている。また、ご家族には行事・イベントの際にお越しいただき、ホームの運営について、その都度ご報告している。	○ 今後は地域の方にもホームの運営についてご理解いただけるよう、取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	イベントの際に声をかけ、チラシなどを配り参加を呼びかけている。また、両隣の農家との作物の交換が頻繁にある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の農家や、住民との交流はお散歩や作物の交換などを通してあるが、行事や活動には参加できていない状態であるため、今後は町会に加盟して積極的に参加していきたい。	○ 現在、町会加盟手続き中である。加盟でき次第町会の催しなどにも積極的に参加してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	地域の方々の相談窓口として、広く門戸を開く。また、相談窓口の利用について、ホームページに掲載し、電話相談の受付もする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点は会議で話し合い、職員全員が理解するよう努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月・8月・3月に開催し、ホームの運営についての報告、今後の運営についての話し合いをしている。話合われた事は毎月の月報でご家族へ報告している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは柏市内のグループホーム連絡会を通じて親しくさせて頂いており、運営に関しても頻繁にご相談させて頂いている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在2名の後見制度を利用している方がおり、弁護士等の話し合いにも立会い、また、主治医と家族との連絡役も請け負っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	柏市虐待防止委員会の柏グループホーム代表委員をホーム長が務めている。また、千葉県の専門委員資格取得、ホーム内では虐待防止を徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際して、ご家族との契約書の読み合わせに時間をかけ、ひとつひとつ確認し、理解していただいている。また、疑問点などはその場で言っていただき、納得のゆくまでご説明をするよう努めている。	
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の暮らしに沿った生活の実現を心がけており、ひとりひとりと話す機会を多く持ち、何でも話せる信頼関係を築くよう努めている。また、ご本人の病状に差し障りの無い範囲で、ご家族やご友人との外出や面会を受け入れている。	
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「オアシスだより」を発行、ホームでの生活のご様子をお知らせすると共に、健康面、生活面を個別に記入し、お届けしている。金銭管理については、ご家族ご本人との話し合いをし、お預かりする形をとっている。	
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際は、職員、ケアマネージャー、ホーム長が対応し、日常の入居者さんのご様子をお話すると共に、ご要望も承っている。頂いたご意見は月の定例会議で職員に報告、話し合いをしている。	
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のケース会議スケジュール会議は全スタッフが参加し、意見を吸収している。	
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご家族のご要望に応じて、担当職員の勤務時間を調整し、極力ご都合に合わせて相談を受けられるよう体制を整えている。	
18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初から各ユニットの主要スタッフの移動はほとんどなく、離職に関しては、職員と管理との話し合いで、出来るだけ継続できるよう心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の資格を取得できるよう、順番に申し込んでいる。また、市内の研修等、可能な限り参加できるよう配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市内でグループホーム職員同士の交流会があり、2、3回に分けて参加、討論会などをしている。また、他ホームの見学会も企画されており、毎回参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間には充分に休めるように、和室の休憩室を設け、仕事と完全に離れて休憩が取れるよう努めている。また、休日の希望を出してもらい、希望通りの休日が取れるよう配慮している。	○ 常勤職員のストレス解消に更に取り組みたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上級の資格の取得等、希望に応じて対処している。また、講習会や研修の受講を通して、介護の仕事について、客観的に見直す機会があり、向上心につながるよう働きかけている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期は特に急激な環境の変化に馴染めず、同様しているため、健康面、精神面共に充分な配慮をする。また、他入居者との輪の中に入れるようにコミュニケーションを密に取るよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の有無に関わらず、認知症で悩むご家族の来訪を受けたときにはご相談に乗っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しくお聞きし、他のサービスも含めてご相談に応じている。また、状況によってはまず市役所の介護支援課にご相談する事をお勧めしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するするために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームでは2泊3日の体験入居期間を設けており、ご本人の様子や暮らし方などをご家族に報告し、検討できるように充分な時間を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の残された能力を最大限発揮できるよう、生活暦を勘案し、得意分野を生かして生活できる様に無理の無い形で進めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、家族、スタッフ三者により支えあう環境を保つ事を重視し、温度差の無い介護を目指している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていくように支援している	入居に至るまでの家族関係は複雑である事が多く、状況に応じて柔軟な対応をするよう心がけている。離れて暮らす事で良い関係が築ける場合も多く、スタッフが間に入って支援できるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	広く門戸を開き、どなたでも入りやすいよう、心がけている。入居者のご友人、ご親戚からの電話はご本人に取り次ぎ、外出なども進んでもらえるように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームが新たな生活の場となり、共通の話題などから友人関係が築けるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方は来訪されたり、また、こちらから新しい入居先へ訪問したりと、退所後も交友関係を続けていく。また、行事などの際には遊びに来ていただけるようご案内を送付している。		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中から、または1対1での対話の中から要望、思いなどを汲み取っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に話し合いを進め、現在までの生活暦を踏まえた上で、今後、より充実した暮らしが出来るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康チェックは毎日欠かさずに行っており、1人1人の状態の変化に迅速に対応できるよう把握している。また、個人の得意分野を生かせるよう、趣味や料理などを声を掛けながら行い、見守っている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月1回の各ユニットでのケース会議で、各人の状況およびケアの方針を話し合い、ケアプラン更新時にはケース検討を行っている。家族来所の折には要望を伺い、ケアプランに盛り込むよう努めている。	○	現在認知症センター方式を使用した介護計画を作成中である。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議で常に現在の状態を話し合い、変化に応じてケアプラン、ケア方法を変更できるよう、迅速に対応している。また、定期的にモニタリング、ケアプランの見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日常の様子を細かく記録し、スタッフ全員が情報を共有できるように努めている。また、個人記録はケアプラン作成の重要な資料となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内にとどまらず、広く外に出て活動できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多くのボランティアにご支援いただいている。民生委員さんには一緒にお散歩に行って頂いている。また、イベントの際には参加していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在他のサービスの利用はしていない。	○	近隣の福祉施設と連携を取り、イベントに参加するなど、交流を図れるよう支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護等は積極的に行っており、地域包括支援センターとは年4回のホームの運営推進会議に参加いただき、連携している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望する病院に通院している。日常的にはホームドクターに2週間に1度往診に来ていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が慈恵会医科大学柏病院と提携しており、精神科に通院している方がほとんどである為、ご家族を含めて定期的にご相談に伺っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームドクターと一緒に往診に来て下さっている看護士さんにご相談する事が多く、ご支援いただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマリーの提供、入居中の様子などを病院関係者に詳しく伝えている。また、入院中、2ヶ月間は居室を確保してお待ちしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	現在は対象者がいない状態であるが、少しずつ低下してきているので、今後状況によって早い段階で判断し、対応について検討してゆきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	上に同じ
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必ずご本人、ご家族と良く話し合い、また、転居先の方ともご相談し合っている。希望があれば来所いただき、ご様子を見てもらうよう努めている。介護サマリーの提供を必ずしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い、守秘義務を徹底している。また、居住スペースと事務所を完全に分けており、他入居者が触れないようになっている。	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1人1人と会話する時間を多く取り、思いを共有するよう心がけている。また、理解できない事はご本人が納得するまでご説明し、時間が掛かってもご本人に決めて頂くようにしている。	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの最も大切な部分だと考えているので、ご本人の希望を重視し、無理強いする事なく、やりたい事をご自分の力で出来るよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容室に来てもらい、希望者のみ利用している。また、長く使ってきた化粧品や個人のこだわりのある理美容品についても、なるべく継続して使用して頂けるよう支援している。	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は入居者によって支えられている状態であり、後片付けなども、長時間にならないように配慮しながらお願いしている。	
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は、常に数種類用紙しており、希望に応じて選んでもらっている。酒類は薬との併用が禁止されている為提供していない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを記録し、スタッフが把握するようにしている。なるべく失敗のないように、声かけをし、トイレ誘導をしている方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴している。本人の入りたいタイミングで入って頂いている。個別入浴をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居間、和室、談話室など、くつろげるスペースを作り、就寝前などに利用して頂いている。なるべく今まで暮らしてきた生活パターンを継続できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の趣味に合わせて、ホーム内で同じ趣味のある方にお声を掛けて一緒に楽しんでもらえるように配慮している。ホーム内の役割分担も、得意不得意を良く見極めて、出来る事を無理の無い範囲でやっていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「盗られ妄想」を訴える方が多く、混乱が多かった為、ご本人、ご家族にご説明してホームで立替払いの形をとっている。	○	今後は外出の際などに、個別にお買い物ができるよう支援できればと考えている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回～2回外出、外食を行っており、個別にお出かけできるようにも配慮している。また、お散歩は天候気候をみて、ほぼ毎日行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないとこに、個別あるいは他の利用者や家族とともにに出かけられる機会をつくり、支援している	植物園や寺社、コンサートなどを定期的に楽しんでもらっている。また、ご家族との外出も頻繁にある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の症状を考えて、電話をしたい場合はご家族に頼んでかけてきてもらうようにしている。お手紙のやり取りは自由に行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	突然の訪問にも快く受け入れられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全く無い。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はしていないが、入居者の状況に合わせて、やむを得ず玄関のみ施錠する場合がある		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に把握しており、見守りを強化し、注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険回避が第一である為、対象者がいる場合には収納はやむをえないと考えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に声を掛け合い、スタッフ間で充分気をつけるようにしている。また、個人別の特徴を把握し、未然に危険回避できるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作つて対応できるようにしている。また、救急隊の方にご指導いただき、スタッフに応急救護の訓練をしてもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行つており、消防署より防災訓練の指導をして頂いている。防災マニュアルを作成し、避難方法、救助方法を職員に周知している。	○	地域の人々の協力がまだ出来ていないので、今後の課題にしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起つて得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族の来訪時にご相談し、予測できる危険性についてお話している。また、状況の変化に応じて月に一度のお手紙でお知らせし、ケアプランにも盛り込むようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りを徹底し、連絡帳やホワイトボードを使って、情報を漏れる事なく共有できるよう対応している。また、急な変化はすぐに掛かりつけ医へ連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬専門のファイルを用意し、変更があるたびに確認するようにしている。また、専門の薬剤師を連携をとり、いつでも相談できるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を中心とした食事やおやつ時のヨーグルト、充分な水分補給、体操・運動によって自然に排泄できるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕の歯磨き、夜間は洗浄・消毒を欠かさず行っている。また、週に一度訪問歯科があるので、訴えなどがあった場合は迅速に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節や体調に合わせてバランス良く調理する事を心がけている。個人別に量や固さを調整し、水分補給は量を計測し、定期的に行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節に合わせておの都度会議で確認している。インフルエンザは毎年スタッフ全員予防接種を行っている。感染症に関しては入所前に検査を行いチェックしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具には常に清潔を心がけており、まな板、ふきん、茶碗などは塩素・熱湯消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外周りに季節の花を栽培し、ガーデニングに力を入れており、親しみやすい雰囲気作りを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建設の段階で採光には特にこだわって設計しており、明るい日差しの入る建物になっている。食卓には季節の花を飾り、玄関には季節感のある飾りつけをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の前に談話室を設けてテレビ・お茶などを用意し、自由に歓談できるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、思い出の品などを持参して頂き、入居前の生活とあまり変わらないように配慮している。お仏壇の持ち込みも許可している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行っており、空調にも配慮している。また、においが気になる方には室内に芳香剤などを置き、対応している。		

(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差の無いバリアフリー構造になっており、浴室、食堂・トイレなどには手すりがあり、安全な作りになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ひとりひとりの症状やこだわりに合わせて、混乱・失敗を未然に防いでいる。居室やトイレには表示の工夫をしている。		
87	○建物の外周囲や空間の活用 建物の外周囲やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	出入り口の拾い中庭があり、畑とつながっているため、自由に入り出しができる。また、隣のユニットへ訪問し、お茶やレク等と一緒に楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くない
98	職員は、活き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日入浴を行っている
- ・天候の良い日は必ずお散歩をする
- ・三食とも完全手料理である事
- ・菜園があり、完全無農薬野菜を栽培、収穫して食材に生かしている事
- ・季節の草花の栽培
- ・高度な医療機関が近く、緊急時の対応が安心である事
- ・かかりつけ医との連携体制
- ・清潔で明るい環境づくり